

# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

## 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25003

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>前年度は、「自ら学びを切り拓く旭の子」を研究主題に、個人テーマを設定し、実践を積み重ねてきた。</p> <p>◇学級経営の面では、自治的な学級づくりを目指し、目的や理由を大切に考える、みんなが納得して合意形成できるような活動の進め方が提案できていた。</p> <p>◇自分たちで解決しようとする主体的な学びの姿勢を育成するために、授業形態の工夫や友達が失敗しても責めないなどの環境づくりの必要性も確認できた。</p>
	<p>◇学力の個人差が大きく、自ら既習を活用して考えることが難しい児童に対して、手立てや個別の関わりを工夫することが必要である。</p> <p>◇児童アンケートでは「学ぶよさを実感する」項目で、特に高学年でかなりの数値の低下がみられた。学習内容が難しくなることで、学ぶ楽しさよりも大変さを感じてしまう傾向が顕著にみられる。低・中学年で感じている学びの楽しさを高学年でも感じられるように、高学年の学習にも自信がもてるような基礎的な学力の定着を目指す。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇「豊かにつながる対話づくり」については日々の授業の積み重ね等により、相手の考えをしっかりと聞こうという意識や態度は日々の授業を通じ、育ってきている。昨年度末に実施した児童アンケートの主体性に関わる項目では子供たちの肯定的な回答が得られているが、その一方で、学力テスト等の結果や日々の子供たちの学習の様子を見ると基礎基本の学力がしっかりと身に付いているとは例年同様、言い難い。「わくわくいっぱい旭の子」実現のためにも、個のよさや課題を大切にし、個に応じた「分かる・できる・楽しい」授業づくりを工夫し、主体的に考え、関わり合える力の育成を目指す。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
主体的に、自らの学びを切り拓く力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>(1) 導入場面では、教材化の工夫と見通しをもつことを大切にする中で、子どもの「～たい」を生み、意欲を引き出す。学びを進める言動力、集中力の持続を図る。</p> <p>(2) 課題への個人追究の時間を十分に確保し、その中で子どもの思い・考えを見取り、考えをもつのが難しい子には個別に関わることで、その後の交流の充実を図る。</p> <p>(3) 考えを広げるのか、深めるのかなど、ねらいに沿った交流の工夫で他者との交流の充実を図る。</p>
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>①学校生活全体を通して、教師が子どもの話をしっかりと聞き、子どもの意思を尊重して関わるとともに、子どもたちが自分たちで解決していけるよう、認め励ましていく。</p> <p>②学校行事の運営、委員会やクラブ、縦割り活動などでは、ねらいを共有し、子どもたちの「～たい」を実現できるように支えていく。振り返り際には、「プラスのまほう」と照らし合わせ、自分たちが学校全体にどんな影響を与えられたか実感できるようにする。</p>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>◇リーフレット「さっぽろっ子ICT活用のススメ」に合わせ、積極的にクロームブックを活用していく。調べ学習や、「ドリルパーク」による個別最適化された学習では、個人で学習することもあるが、対面の授業を中心としながら、端末を有効活用し、仲間との学び合いも取り入れた授業を目指していく。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

### 新年度（主に1学期）

◇発達段階に合わせた低・中・高の各学年ブロックに分かれて、日常実践交流や授業づくりに取り組んでいく。個人テーマを決定。

### 〔一人一人の教職員〕（2学期から）

◇研究の力点「自ら学びを切り拓く」に関連する個人テーマについて、チームに分かれ日常実践の中で追究しブラッシュアップ。

### 〔学校全体〕

◇各々の個人テーマに基づいた実践交流と授業づくりを通して、「学びを切り拓く力」に有効な手立てを確立していく。

### 次年度へ

◇これまでの実践や子どもたちの育ちを振り返り、今年度の取組の成果と課題を明らかにする。